

平成30年7月
下野市教育委員会

平成30年度とちぎっ子学習状況調査の下野市の結果は、小学校・中学校ともに、全教科で「基礎・基本」、「思考・判断・表現」の問題両方で、県の平均正答率を上回る結果となりました。また、小学校では全ての領域で、中学校では国語「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」以外の領域で県の平均正答率を上回る結果となりました。

①教科に関する調査

- <問題別> 「基礎・基本」の問題
 「思考・判断・表現」の問題
- <領域別> ◇国語（小） 4領域 ◇国語（中） 4領域
 ◇算数（小） 4領域 ◇社会（中） 2領域
 ◇理科（小） 2領域 ◇数学（中） 4領域
 ◇理科（中） 4領域
 ◇英語（中） 3領域

②児童生徒質問紙調査

- 質問数 小学校は94問、中学校は113問
 - 回答方法 小学校（選択回答式）、中学校（選択マークシート式）
 - 質問内容 小学校、中学校ともにほぼ同じ内容（教科数等の差による違いあり）
 - 家庭での学習 ○読書 ○宿題 ○学ぶ意欲 ○学校での様子 ○家での生活
 - 自分自身のこと ○家族のこと ○社会のこと ○とちぎっ子学習状況調査のこと
 - 教科の学習のこと
- 【カテゴリー分類】 ○学びの基礎力 ○社会的実践力 ○学級力 ○家庭学習力

【H30問題別比較】 とちぎっ子学習状況調査結果の下野市と県平均との比較

（基礎）＝「基礎・基本」の問題、（活用）＝「思考・判断・表現」の問題

◎大きく上回っている（5ポイント以上） ○上回っている（1ポイント以上5ポイント未満）

－同じ（±1ポイント未満）

▽下回っている（1ポイント以上5ポイント未満） ▼大きく下回っている（5ポイント以上）

小学校4年	平成30年度	小学校5年	平成30年度	中学校2年	平成30年度
国語 基礎	○	国語 基礎	○	国語 基礎	－
国語 活用	○	国語 活用	○	国語 活用	○
算数 基礎	○	算数 基礎	○	社会 基礎	○
算数 活用	○	算数 活用	○	社会 活用	○
理科 基礎	○	理科 基礎	○	数学 基礎	○
理科 活用	○	理科 活用	○	数学 活用	○
				理科 基礎	○
				理科 活用	○
				英語 基礎	◎
				英語 活用	◎

※基礎＝「基礎・基本」の問題
 ※活用＝「思考・判断・表現」の問題

【H30領域別比較】 とちぎっ子学習状況調査結果の下野市と県平均との比較

◎大きく上回っている（5ポイント以上） ○上回っている（1ポイント以上5ポイント未満）

－同じ（±1ポイント未満）

▽下回っている（1ポイント以上5ポイント未満） ▼大きく下回っている（5ポイント以上）

小学校国語	4年	5年	小学校算数	4年	5年
話すこと・聞くこと	○	○	数と計算	○	○
書くこと	○	○	量と測定	○	○
読むこと	○	○	図形	○	◎
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○	○	数量関係	○	○
小学校理科	4年	5年			
物質・エネルギー	○	○			
生命・地球	－	○			

中学校国語	2年	中学校社会	2年
話すこと・聞くこと	○	地理	○
書くこと	○	歴史	○
読むこと	○		
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	▽		
中学校数学	2年	中学校理科	2年
数と式	○	身近な物理現象	○
図形	○	身の回りの物質	○
関数	○	植物の生活と種類	○
資料の活用	○	大地の成り立ちと変化	○
中学校英語	2年		
聞くこと	○		
読むこと	○		
書くこと	◎		

1 小学校のとちぎっ子学習状況調査結果について

国語では、4年生の「書くこと」で県平均正答率を4ポイント近く上回り、他の3領域で2ポイント以上上回りました。5年生においても、「書くこと」で4ポイント以上上回り、他の3領域で2ポイント以上上回りました。

算数では、4年生の「図形」と「数量関係」で県平均正答率を4ポイント以上上回り、「数と計算」で3ポイント以上上回りました。5年生でにおいては「図形」で8ポイント近く上回り、「数量関係」で3ポイント上回りました。4年生、5年生ともに他の領域では1～2ポイント程度上回りました。

理科は、4年生の「物質・エネルギー」で県平均正答率を4ポイント近く上回りました。5年生は「物質・エネルギー」、「生命・地球」の2領域で2ポイント近く上回りました。

2 中学校のとちぎっ子学習状況調査結果について

国語は「書くこと」で県平均正答率を3ポイント以上上回りました。「話すこと・聞くこと」「読むこと」では1～2ポイント以上上回りましたが、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で1ポイント以上下回りました。

社会では「地理」で県平均正答率を3ポイント以上、「歴史」で2ポイント以上上回りました。

数学は「資料の活用」で県平均正答率を4ポイント以上、「数と式」「図形」で4ポイント程度上回りました。「関数」の領域では2ポイント以上上回りました。

理科は「身近な物理現象」で県平均正答率を4ポイント程度上回りました。「大地の成り立ちと変化」では3ポイント以上上回りました。「身の回りの物質」「植物の生活と種類」は2～3ポイント程度上回りました。

英語は「書くこと」で、県平均正答率を7ポイント以上、「読むこと」「聞くこと」で4ポイント以上上回りました。

3 小・中学校の児童生徒質問紙調査結果について

【H30 カテゴリー別比較】とちぎっ子学習状況調査結果の下野市と県平均との比較

◎大きく上回っている（5ポイント以上） ○上回っている（1ポイント以上5ポイント未満）

－同じ（±1ポイント未満）

▽下回っている（1ポイント以上5ポイント未満）

▼大きく下回っている（5ポイント以上）

カテゴリー		小4	小5	中2
学びの基礎力 (教科学力や社会的実践力を身につけていく上で基礎になる力のこと)	豊かな基礎体験 (交流・活動したりする自然体験や社会的・対人体験)	－	○	－
	学びに向かう力 (好奇心や学ぶ楽しさ、向上心や自己有能感、達成感)	－	－	○
	自ら学ぶ力 (自主的・意図的に学習を進めるスキルや態度・習慣)	○	○	○
	学びを律する力 (学習行動を適切な方向へとコントロールする力)	○	－	－
社会的実践力 (集団の中で良好な人間関係を結び、問題を主体的に解決しながら、自らの成長を図る能力・スキルのこと)	問題解決力 (問題や課題を発見し主体的に解決する能力・スキル)	▽	－	－
	社会参画力 (集団・社会への貢献や関わろうとする態度や力)	－	○	－
	豊かな心 (良好な人間関係を基盤によりよく生きようとする態度や力)	○	－	－
学級力 (学び合う集団を形成する力のこと)	対話力 (お互いを認め合い、対話する学級の土壌)	○	○	○
	支え合う力 (協調してトラブルを解決したり、支え合う学級の土壌)	○	○	○
	共生力 (認め合い、安心してともに共生する学級の土壌)	○	○	○
	規律力 (生活規則やルール、社会規範などを順守する学級の土壌)	○	－	○
家庭学習力 (家庭での宿題、予習・復習、自主的学習等を計画的かつ自律的に行うために必要な能力や態度のこと。また、そのための環境・土壌など含む)	▽	▽	－	

「学びの基礎力」に関する項目では、小・中学校において全ての項目で県平均を上回りました。小学校では「自ら学ぶ力」が3ポイント近く上回り、「学びを律する力」で3ポイント近く上回りました。中学校では「学びに向かう力」「自ら学ぶ力」で1ポイント以上上回りました。

「社会的実践力」に関する項目では、小・中学校において「社会参画力」「豊かな心」の2項目で県平均を1ポイント程度上回りました。しかし「問題解決力」の項目では小・中学校ともに県平均を下回りました。4年生は2ポイント以上、5年生、中学2年生では、1ポイント程度下回りました。

「学級力」に関する項目では、小・中学校において全ての項目で県平均を上回りました。小学校では「支え合う力」の項目が一番高く2～4ポイント上回りました。中学校では「対話力」の項目が一番高く4ポイント以上上回りました。

今後、この結果をさらに詳しく分析し、学校・家庭・地域における学習指導や生活指導の工夫改善等に生かし、児童・生徒のさらなる学力向上につなげていきたいと考えています。